

千葉県立千葉北高等学校

1 司書教諭及び学校司書の取組

(1) 校内組織

本校では、総務部の中に図書係が位置づけられ、司書教諭である総務部長が図書主任を兼任している。図書係は教諭2名、学校司書1名で構成されている。図書委員会と通常の学校図書館運営は図書館に常駐している司書教諭と学校司書が行っている。

(2) 生徒や教員に対する支援

ア 学校図書館利用のガイダンス

4月に、1年生を対象にクラスごとに学校図書館オリエンテーションを行っている。学校図書館が特別教室棟の4階にあり生徒の動線にないため、入学したばかりの生徒にはまず場所を覚えてもらい、恵まれた環境であることを知らせ、足を運んでもらうことを第一に実施している。

イ 学校図書館の運営

開館時間は、通常昼休みと放課後としているが、始業前から開館し、放課後の利用時間を延長したことにより、学習場所としての利用が増加した。

ウ 学習等に関する支援

調べ学習に関連した図書資料を準備し提供している。県立中央図書館からの相互貸借サービスを利用し、ジャンルごとに調べ学習の本を借用し授業に活用する。

エ 読書推進活動

年に9回ほど発行される図書だよりには、新規購入図書の案内に加えて、図書委員のおすすめ本を掲載し、教室掲示している。また、図書館前の展示ケースに新着図書の表紙や内容を掲示し、興味を持ってもらえるようにしている。図書館の入口付近に「新着本コーナー」、「映画化された原作本コーナー」を設置し、関連した書籍の展示とともに映画のチラシ等を掲示しているため、足をとめ借りていく生徒も多い。

オ 活動状況

豊富な蔵書を誇る図書室



進路学習に適した書籍の活用

班ごとの主体的な活動



放課後も残ってポスター作成

教科横断的な学習により深い学びへ



(地歴公民科)
黒澤教諭によるレクチャー
＜SDGs について＞



(生物部・進路指導主事)
木村教諭によるレクチャー
＜ポスター作成のコツ・進路実現に向けて＞

プレゼンリハーサル → フィードバック → 改善へ



プレゼンリハーサルの様子①



プレゼンリハーサルの様子②

プレゼンテーション本番の様子





総合的な学習の時間 学習指導案

千葉県立千葉北高等学校 教諭 和泉 雄介

1 日時 令和元年11月7日(木) 第4限 化学講義室・パソコン教室

2 学級 3年A組(男18名、女21名、計39名)

3 学級観

明るく素直で、男女ともに分け隔てなく接することができる生徒が多い。半数以上の生徒がAO及び推薦入試で受験し、進路先が決定している生徒も少なくない。したがって、それぞれの進路希望に応じて、進路学習に励んでいる。今後の進路は様々であるが、それぞれの進路希望について語り合い、認め合い、高め合うような関係を構築できるような環境作りが担任の責務であると考えている。

4 単元名 ドリカム☆プロジェクト for SDGs ～国連千葉北代表部・10の提言～

5 単元目標

将来の自己実現に向けて、各自が進路希望に応じた進路学習を仕上げていく段階である。自身の夢を実現する上で必要なことや、将来希望する職業(職種等)において、何を実現したいのかを考えさせる契機としたい。その際に、国連で採択されているSDGsで示されている17のテーマに基づき、世の中で課題となっていることについて理解すると同時に、自分が目指す職業分野において、どうやってその課題に取り組めるのかについて考えさせたい。

6 単元指導計画

(1) イントロダクション・レクチャー・リサーチ (3時間)

※適宜、アンケート・インタビュー実施・ポスター作成に充当。また、司書教諭による指導助言、地歴公民科教諭(SDGsについて)、生物部顧問(プレゼンテーションについて)によるレクチャーを実施。

(2) リハーサル・ディスカッション・リサーチ (1時間)

(3) プレゼンテーション本番・ポートフォリオ作成 (1時間) ※本時

7 単元の評価計画(評価規準)

①課題を発見・設定する力	・イントロダクションやレクチャーによりSDGsの内容をよく理解できる ・社会とのつながりを意識し、適切な課題を発見し、設定することができる
②情報を収集する力	・設定した課題に関して適切な手段で必要な情報を集めることができる

	適切な方法でアンケートやインタビューを実施し、結果を分析できる
③主体的に思考・判断する力	収集した情報を吟味し適切な結論を導くための判断をすることができる
④より良い解決策を考える力	班員で協力し合い、多角的な視点から最適な解決策を見出すことができる
⑤わかりやすく他者に伝える力	ポスターや口頭発表により自らの考えをわかりやすく伝えることができる
⑥主体的・創造的・協同的に取り組む姿勢	- 班員と協力し合い、課題に取り組むことができる - 他の班員とも協力し合い、活動全体の運営に貢献することができる
⑦自己の在り方生き方を考える姿勢	- 本プロジェクトを通じて、自身の進路についてより深く考えることができる - 自身の進路実現と社会における課題解決を関連づけることができる

8 本時の目標

- (1) プレゼンテーション活動において、グループでの活動に積極的に参加することができる。(⑥)
- (2) プレゼンテーション活動において、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。(⑤)
- (3) 本活動全体を振り返り、自身の進路について考えを深めることができる。(⑦)

9 本時の学習展開

段階 (配当時間)	学習内容 学習活動	学習活動の支援・ 指導上の留意点	観点別評価
導入 (5分)	- プレゼンテーション活動の発表手順および評価方法について理解する。 - 効果的なプレゼンテーションの方法について理解する。	- プレゼンテーション活動の発表手順および評価方法について説明する。 - 大きくはっきりした声で、身振り手振りなどのジェスチャーやアイコンタクトを有効に使うよう指示する。	わかりやすくプレゼンテーションを行う方法について理解できる (⑤) 班員と協力しながらプレゼンテーションの準備を行うことができる (⑥)
展開① (20分)	班ごとに教室にてプレゼンテーションを行う。	円滑に進行できるよう、適宜指示を与える。	グループでの活動に積極的に参加している (⑥)

	・発表時は、役割分担を適切に行い、自分たちの考えを効果的に伝える。 ・聴者は発表内容をよく理解し、必要に応じて質問を与えることで、全体の理解をより深めるよう努める。	・必要に応じて、発表の補助や、フィードバックを適宜与える。	自分の考えをわかりやすく伝えることができる (⑤) 他班の発表から新たな気づきを得て、自身の進路について考えを深めることができる (⑦)
展開② (20分)	発表者と聴者を入れ替えて、展開①と同様の内容を実施する。	入れ替えがスムーズに行われるよう、適宜必要な師事を与える。	
まとめ (5分)	・本時のまとめ	・ポートフォリオに振り返りを書かせる。	自分たちの課題に対してより良い解決策を見出すことができる (④) 活動全体を振り返り、自身の進路について考えを深めることができる (⑦)

10 備考

本研究授業は学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究・確かな学びの早道「読書」事業の一環であり、また中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業を兼ねています。参考文献として、千葉県立図書館「高等学校・特別支援学校用セット」内から「進路B①②③セット」を活用しました。実施場所は、プレゼンテーション活動を実施するのに適した会場を設定しました。

令和元年度学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究
確かな学びの早道「読書」事業

令和元年12月13日
教諭 和泉 雄介

学校図書館の利活用促進プロジェクト

- 1 目的 学校図書館の利活用を促進しつつ、進路学習への動機付けとする。
- 2 方法 11月7日に実施した「ドリカム☆プロジェクト」で使用したポスターを廊下に掲示し、下記の要領で概要を周知する。そして、投票の結果で1位になった1班について、2学期末終業式の際に発表の機会を設ける。その際に、図書館の利活用に関する告知を行い、3学期以降の利用生徒数増加につなげる。

3 日程

日 程	内 容	備 考
11月25日（月）	企画提案	
12月13日（金）	①ポスター掲示開始 ②投票開始	生徒昇降口に掲示済 各クラスで投票
12月18日（水）	②投票締切（→集計作業）	HR担任が集計
19日（木）	③投票結果報告	HR担任→係
20日（金）	④結果を報告（職員会議）	係→教職員
23日（月）	⑤終業式にて発表	

4 手順

- (1) 11月7日に実施した「ドリカム☆プロジェクト」で使用したポスターを生徒昇降口に掲示する (①)。
- (2) 生徒は、期日までにポスターの内容をよく読み、最も優れていると判断した1班に投票する。投票の際は別途配布のシールを、教室に掲示した集計用紙に貼る (②)。
- (3) HR担任は、集計用紙に正しく投票されているかを確認し、12月19日までに係へ提出する (③)。
- (4) 係は、全クラス分を集計し、12月20日の職員会議にて結果を報告する (④)。
- (5) 最も得点の高かった1班について、12月23日の終業式の際に発表を行う (⑤)。また、同時に図書館の利活用促進を目的としたプレゼンテーションを係が行う。

5 投票について（詳細）

区分	生徒	教職員	3A生徒
得点	1人1票で1点	1人2票で各1点	1人1票で10点
評価	●ポスターの完成度 ※わかりやすさ、十分に調べてあるか、課題解決につながるような方策であるか等の観点で判断		●プレゼンテーションの完成度 ※わかりやすいか、興味をひく内容か等の観点で判断

(別添資料) ○投票集計用紙 ○プロジェクト概要

2 成果と課題

本校は、26 学級あり約 1,000 人程度の生徒が在籍しているが、全体的に見ると一部の利用にとどまっているという実態が上げられる。ここ 2、3 年で図書館を利用する生徒は増加しているものの、本を読む（借りる）生徒は減少し、自習する場所としての利用に変わりつつあることが、少し残念である。

本年度、読書活動の推進事業「確かな学びの早道『読書』」に指定されたことを受け、学校図書館を活用した授業を展開してもらえよう、全職員に周知したところ、調べ学習で利用したいという依頼があった。まずは、授業で利用する書籍の要望を教科担当者から受け、本校の図書館の蔵書だけでは資料不足のため、テーマに関連した図書資料を県立中央図書館の相互貸借サービスを利用し、充実した図書資料を提供することができた。生徒も授業で図書室を利用することにより、活字に親しむ態度を養うとともに、文献の調べ方や著作権の利用ルール、テーマに沿った文献の選び方などを学ぶことができた。また、授業での利用をきっかけに、本の貸出しや自習で図書館を利用する生徒が増えた。

今後も、このような授業が継続的に行われるよう、学校図書館で何ができるかを全職員に積極的に働きかけて、学校図書館の利用促進を目指していきたい。また、図書館を利用する生徒や職員から、興味を持って手に取ってもらえるような選書を心掛け、読書環境の充実に努めていきたい。

ドリカム☆プロジェクト

令和元年10月10日（木）

1. 概要

ドリカムプロジェクトとは・・・

Dreams come true. 略してドリカム。

みなさん一人一人の夢を実現しましょう！

そのために、将来は何をやりたいですか？そして何を実現したいですか？

そのために、問題（課題）となっていることは何でしょうか？

このプロジェクトでは、グループで1つのテーマ・職業を取り上げて、それについて調べた内容をプレゼンテーションしてもらいます。1人でも多くの人に、自分の夢を理解してもらい、お互いに応援し合える環境を作り上げていきましょう！

2. 方法

- (1) 希望する分野（職業）に応じて、3～4人程度のグループを作る
- (2) 希望する分野（職業）について調べると同時に、何が問題（話題）になっているのか、それについて自分（たち）はどうやって解決していこうと考えているのかを検討する
- (3) 調べた内容を、ポスター1枚にまとめ、グループでプレゼンテーションを行う
- (4) 必要に応じて、書籍やインターネット等により調査を行い、1冊以上の参考文献を必ず挙げる
- (5) 学校内外の有識者1名以上へのインタビューを必ず含める
- (6) 適宜、実習助手の先生（上野先生）に助言をもらう

3. 場所

- (1) ディスカッションやポスター作成、プレゼンテーション等のグループ活動は原則的に図書室で行い、適宜、資料等を参照する
- (2) 必要に応じて、教室やパソコン室も利用できる

4. 日程

日 時	活 動 内 容	実施場所
10月10日（木）⑥LHR	グルーピング、構想を検討	図書室
17日（木）⑥LHR	調査・リサーチ・インタビュー	図書室・パソコン室等
28日（月）⑦総合学習	ポスター作成	図書室・パソコン室等
10月31日（木）④LHR	プレゼンリハーサル・改訂	図書室
11月 7日（木）④LHR	プレゼン本番	図書室

5. 備考

- (1) グルーピングについて、別紙参考図書リストから希望する分野を第1～第3志望まで挙げ、その事前調査に基づいて決定する
- (2) 参考文献について、別紙参考図書リスト内の書籍を必ず1冊含めること
その他は図書室内の資料や個人で所有している書籍を活用すること

ドリカム☆プロジェクト

<グループ用事前調査>

※番号は、「① - 1」から「③ - 26」までのの中から記入する

※書籍名は、冒頭の「〇〇仕事」までを記入する

希望順位	番 号	書 籍 名
1		
2		
3		
例	① - 1	健康を守る仕事

高校卒業後に進学する予定の分野名

将来的に働きたい職業（分野）名

3年A組（ ）番 氏名（ ）

ドリカム☆プロジェクト

<グループ用事前調査>

※番号は、「① - 1」から「③ - 26」までのの中から記入する

※書籍名は、冒頭の「〇〇仕事」までを記入する

希望順位	番 号	書 籍 名
1		
2		
3		
例	① - 1	健康を守る仕事

高校卒業後に進学する予定の分野名

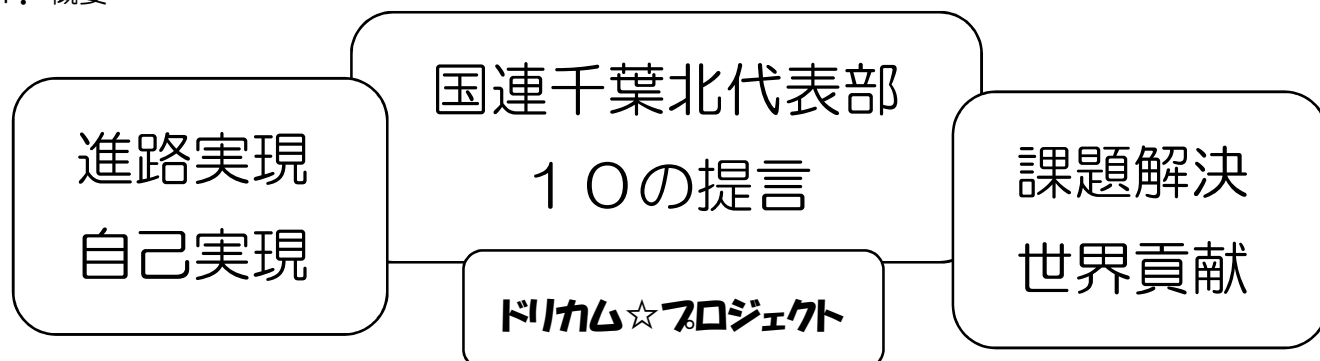
将来的に働きたい職業（分野）名

3年A組（ ）番 氏名（ ）

～国連千葉北代表部・10の提言～

令和元年10月10日（木）

1. 概要



ドリカムプロジェクトとは・・・

Dreams come true. 略してドリカム。 みなさん一人一人の夢を実現しましょう！

そのために、将来は何をやりたいですか？そして何を実現したいですか？

また、今の世の中で問題（課題）となっていることは何でしょうか？

その問題（課題）を解決するために、将来のあなたにできることはなんですか？

このプロジェクトでは、SDGs（17個の項目）の中からグループで1つのテーマを取り上げて、その課題をそれぞれの立場からどうやって解決していくのかについて調べた内容を

「国連千葉北代表部」としてプレゼンテーションしてもらいます。10班で合計10の提言。

千葉北高校の代表としてSDGsに対する解決策を見出し、世界に貢献できる人材を目指そう！

そして、自分の夢を語り合い、お互いに応援し合える環境を作り上げていきましょう！

SDGs（持続可能な開発目標）とは・・・

2015年、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。これが、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。

2. 方法

- （1）希望する分野（職業）に応じて、3～4人程度のグループを作る
- （2）希望する分野（職業）について調べ、その分野（職業）でどのように自分の夢を実現するのか、どのように世の中に貢献していくのかを考える
- （3）SDGsを参考に、グループで1つを取り上げ、そのテーマについて、それぞれが希望する分野（職業）の視点で、どうやって解決していけるのかを検討する
- （4）調べた内容を、ポスター1枚にまとめ、グループでプレゼンテーションを行う
- （5）必要に応じて、書籍やインターネット等により調査を行い、必ず2冊以上の参考文献を挙げる
- （6）学校内外の有識者1名以上へのインタビューもしくは40名以上のアンケート調査を必ず含める
- （7）適宜、実習助手の先生（上野先生）に助言をもらう

3. 場所

- (1) ディスカッションやポスター作成、プレゼンテーション等のグループ活動は原則的に図書室で行い、適宜、資料等を参照する
- (2) 必要に応じて、教室やパソコン室も利用できる

4. 日程

日 時	活 動 内 容	実施場所
10月10日(木) ⑥LHR	グルーピング、構想を検討	図書室
17日(木) ⑥LHR	調査・リサーチ・インタビュー	図書室・パソコン室等
28日(月) ⑦総合学習	ポスター作成	図書室・パソコン室等
10月31日(木) ④LHR	プレゼンリハーサル・改訂	図書室
11月 7日(木) ④LHR	プレゼン本番	図書室

5. 備考

- (1) グルーピングについて、別紙参考図書リストから希望する分野を第1～第3志望まで挙げ、その事前調査に基づいて決定する
 - (2) 参考文献について、別紙参考図書リスト内の書籍を必ず1冊含めること
その他は図書室内の資料や個人で所有している書籍を活用すること
 - (3) 以下に参考となるサイトを紹介するので、適宜参照すること
- 国連HP (<https://www.unic.or.jp/>)
- 国連日本政府代表部 (https://www.un.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)
- 国連HP「事実と数字」(https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/)

